様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：３１３０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０８２５

研究課題名（和文）近世武家女性のライフサイクルと奥奉公に関する基盤的研究

研究課題名（英文）Basic Study on the life cycle and inner-palace working of samurai women in the early modern period

研究代表者
菊池　慶子（柳谷慶子）（KIKUCHI, KEIKO）

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：００２５８７８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：近世の武家政治を理解するうえで、奥向の女性たちの果たした役割を考えることは不可欠の視点となっている。これまで主要な関心は、江戸城大奥の研究であったが、この研究においては東北地方の大名家を取り上げた。具体的には、仙台藩、秋田藩、八戸藩、弘前藩、盛岡藩、磐城平藩の収集史料の読解を通して、大名の妻や母の役割、奥女中の職務の具体的内容などを、女性たちのライフコースの全体に着目して検討をおこなった。また収集史料の一部を翻刻した。

研究成果の概要（英文）：In this study, I paid attention to the role of women in samurai politics of the Edo era. The main concern of the past, was a study of the inner palace in Edo Castle of the Tokugawa Shogun. Against this inner palace model, I took up feudal lords of the Tohoku region in this study. Specifically, it is the Sendai clan, Akita clan, Hachinohe clan, Hirosaki clan, Morioka clan. Through the reading of collecting historical materials, I discussed the role of wife and mother of feudal lords. In addition I examined work contents and life course of the maid in the palace.

研究分野：日本近世史

キーワード：武家女性　奥女中　表と奥　奥向の儀礼　女使　仙台藩伊達家奥方　一関藩田村家奥向　秋田藩佐竹家奥向

１．研究開始当初の背景

(1)近世武家政治をめぐる近年の研究は、女性史・ジェンダー史の視点の導入と、表と奥の有機的な関係性への着目により、権力の特質や政治システムの特徴をとらえるあらたな成果を生み出している。すなわち将軍家（幕府）・大名家（藩）の政治システムは、公的な政治・儀礼をおこなう「表」の領域だけでなく、家の存続を担い、家相互の交際をおこなう「奥」の領域の重要性が明らかにされ、そうした側面から武家政治を支えた女性たちのはたらきが具体的に検討されることになった。将軍家大奥の職制や空間構造に関して明らかにされた成果は大きいが、大名家奥向についても、薩摩藩島津家・鳥取藩池田家・徳島藩蜂須賀家・加賀藩前田家・彦根藩井伊家・仙台藩伊達家などを中心に、それぞれの奥向史料の所在確認と併せて、女性家臣団としての奥女中の職制と機能の分析が蓄積されつつある。表の藩政史料に比べて関心が低く伝来状況が着目されてこなかった奥向関係史料の調査を精力的におこない、史料収集と合わせて史料類型などの情報をデータベース化し、翻刻を進めた近年の福田千鶴氏の取組み（『平成 16 年度～19 年度科学研究費補助金基盤研究Ｃ　近世武家社会における奥向史料に関する基礎的研究』、『平成 21 年度～23 年度科学研究費補助金基盤研究Ｃ日本近世武家社会における奥向構造の基礎的研究』）は、武家社会全体の構造を解明するうえでも貴重な成果をあげている。

(2)上記の研究状況にあって、研究代表者は主に仙台藩伊達家をとりあげ、大名当主夫人の関わる儀礼と表政治との関係性、奥女中組織の改革に関して検討を加えてきた。また、東北諸藩の大名家文書の一角に存在する儀礼関係の史料群、および奥女中関係の史料を部分的に概観している。その経緯から、武家政治を支える女性の役割の解明は、なお未確認、未着手の状況にある奥向関係資料の悉皆調査をおこない、職務の実態をとらえる余地があり、大名家の女性が関わる儀礼は誕生から死後の法要まで、ライフサイクル全体を見通す必要があり、奥女中については武家の教育、登用から退任に至る期間まで関心を向ける必要性を考えるに至った。

２．研究の目的

(1)近世武家政治を支えた奥向の女性たちの役割とはたらきを、女性たちのライフサイクルの全体に着眼して検討をおこなう。大名当主の正室・生母・娘については、出自の家、誕生から婚姻を経て老齢期を迎え、没後の法要に至るまでをとりあげ、儀礼の中身、儀礼と表の政治との関わり、将軍家・親族家との交際役割の詳細を考察する。奥女中については、とくに職制および職務の内容、職務のキャリア性、引退後の家の創設をめぐる問題を検討する。

(2)大名家に伝来する奥向関係史料の調査が進むなかで未着手となっている東北諸藩の奥向関係史料の所在調査をおこなう。そのうえで重要な史料については翻刻を進め、研究成果報告書に収載することで史料の共有化を図る。

３．研究の方法

(1)テーマに関する研究文献（図書、雑誌論文)、および活字史料図書（藩日記、法令集、藩士日記など）の調査と収集。東京および東北の図書館・文書館等でおこない、必要に応じて購入、複写サービス利用等により収集する。

(2)東北諸藩の奥向関係史料（古文書）の所在調査と収集。各県の図書館・文書館、東京の図書館等でデジタルカメラによる撮影、複写サービス利用等により収集する。収集した史料は目録を作成し、翻刻した史料について

は成果報告書に掲載する。

(3)収集史料の解読、分析を進め、成果を論文として公表する。学会、歴史講座等でも公表の機会をもつ。

４．研究成果

(1)当主家女性のライフコースと儀礼

仙台藩伊達家、一関藩田村家、秋田藩佐竹家の当主正室、側室（生母）、娘について、系譜等を中心にライフコースを追跡し、各ライフステージの儀礼のありかた、表の政治と関わる問題について検討をおこなった。このうち一関藩田村家、秋田藩佐竹家の女性に関する考察として、①「大名正室の領国下向と奥向――関藩田村家宣寿院の事例を中心に――」（『歴史と文化』52）、②「女性の長寿を祝う」（『アジア遊学』186）を公表した。①は田村家六代藩主宗顕（常徳院）正室宣寿院の人生に着目し、若年当主の後見的立場、領国への下向と家臣の謁見、本家である伊達家奥向との儀礼的交際役割を見出し、それぞれ藩政との関わりを探った。伊達家奥向との交際については、いわゆる本家・分家の親族交際にとどまらない、伊達家と将軍家大奥との女使を介した序列儀礼に倣った関係性の構築を見ることができる。また、大名正室であった女性の領国への下向は従来、例外的な事例にとどめられてきたが、奥向を統率する立場を嫡子正室に譲り、実質的に隠居の立場となる限りで、領国下向が幕府に容認されたことを指摘した。②は秋田藩佐竹家の智清院・永寿院の八十賀のほか、五代将軍綱吉生母桂昌院、一関藩田村家宣寿院の長寿を祝う参賀の儀礼をとりあげ、それぞれ開催の背景を探ることで、女性と政治との関わりを考察した。秋田藩の智清院は３代藩主義処側室で４代藩主義格生母であった女性である。５代藩主義峯は、窮迫した藩財政を立て直すべく改革を進め、政務の刷新を図るなかで、延享元年（1744）治世 30 年を目前にしていた。この年 80 歳となった智清院の長寿は、義峯にとって、長期政権を価値づける吉祥として祝うべきものとなった。一方、永寿院は６代藩主義真の実祖母であったが、若年の養子藩主義真にとって、80 歳の長寿に恵まれた祖母永寿院は、家臣の末永い奉公を期待し自身が築く君臣関係の精神的紐帯として、頼るべき大事な存在であった。正室や生母となった女性たちの老いが長寿として価値づけられたことには、このような政治的な意義を見出すことができる。

(2)奥女中の職制と任務

八戸藩南部家、秋田藩佐竹家、弘前藩津軽家の奥女中組織に関する史料のなかに奥向の建築上の特徴が知られる図面や記述を発見した。「災害と女性」を全体テーマとする総合女性史学会 2011 年度大会で報告をおこなうにあたり、安政江戸大地震での大名江戸屋敷奥向の被害状況をとりあげ、奥向は避難が困難な建築上の問題があり多くの犠牲者を出したこと、一方水戸藩では老女の災害対応の姿がみられたこと、奥女中の任務として当主家女性を護衛して屋敷を退避する態勢がとられたことなどを、事例をあげて紹介した。

奥女中の職制については従来、将軍家大奥との関係の有無を指標とする職制タイプの類型化がなされているが、再考する余地がある。同じ家にあっても規模や職制が大きく変化しており、これは奥女中組織が正室の実家の影響を受けることを示すものである。

奥女中の職務についてはとくに仙台藩伊達家で「奥方日記」を入手できたことで、女使の検討を進めた。「女使」の具体的な任務として将軍家大奥への儀礼の使者役割、縁組交渉での使者役割に着目し、「大名家『女使』の任務―仙台藩伊達家を中心に―」（『女性官僚の歴史』）と題して公表した。伊達家奥方から将軍家大奥へ年中儀礼の使者として派

遣される女使は、進上物の準備、口上の作成、江戸城への登城態勢などにおいて、役方奥女中総出の、いわばチームとして仕事が遂行されていたこと、奥女中としてのキャリアを積み就任する役職であること、また将軍家と大名家の縁組に際して藩主夫妻の意向を伝え、老女を介して内意を探り藩主夫妻に伝える折衝・伝達役として重要な任務を担ったことなどを明らかにした。

このほか、奥向の交際役割と関わる奥女中の実務に関して、仙台藩伊達家と一関藩田村家の奥女中が交わした書簡の分析から知られる情報が多くあり、その一部は前掲「大名正室の領国下向と奥向―」で触れているが、全面的検討は今後の取り組みとして残している。

(3)奥女中を始祖とする家臣家

奥女中に始まる家臣家が藩の家臣団の一定度を占めていることを伊達家の系譜史料から分析をおこない、成果の一部は歴史講座等で公表しているが、全データを解析しての論文作成は今後の取り組みとなる。

(4)奥向関係史料の所在確認と史料翻刻

①東北諸藩の奥向関係史料は、仙台藩伊達家については仙台市博物館および明治大学博物館、宮城県図書館等、一関藩田村家については一関市博物館及び東北学院大学東北文化研究所、秋田藩佐竹家については秋田県公文書館、八戸藩南部家については八戸市立図書館、弘前藩津軽家については弘前市立図書館及び国立史料館、盛岡藩南部家については岩手県立図書館、磐城平藩内藤家については明治大学博物館等で所在が確認され、収集史料の目録化を進めた。全体的に冠婚葬祭、儀礼に関するものが多くを占めているが、子女の出生と養育に関係する史料群の検討により、この任務を負う奥女中および乳母の採用、人員確保の困難に直面する大名家の姿が捉えられ、時代の推移とともに変化する様相を知ることも可能となる。なお、秋田藩佐竹家の奥向関係史料については『成果報告書』に目録を掲載した。

②仙台藩伊達家、八戸藩南部家、秋田藩佐竹家については近世後期から幕末にかけての奥向日記が残ることを確認した。いずれも表の藩政史料と対比して検討をおこなうことにより、藩政治と奥向の関係、および奥向の女性たちの政治的任務を実態的に分析することが可能となる貴重な史料である。このうち明治大学博物館所蔵の「仙台藩伊達家奥方日記」（仮称）については『研究成果報告書』に翻刻し、ひろく利用に供するものとした。史料の概略は以下のようにまとめられる。

「仙台藩伊達家奥方日記」は、寛政 7 年 2 月、天保 3 年 5 月、天保 12 年 2 月・5 月・7 月・8 月・9 月・10 月・11 月・12 月の記録が現存している。寛政 7 年の奥方のトップは、8 代藩主伊達斉村正室興姫（信証院）であったが、7 代藩主重村正室であった観心院、および同側室の正操院が存命中で、二人の動向に関する情報も含まれている。天保 3 年は 12 代藩主斉邦の治世であるが、正室を迎える前の時期であり、11 代藩主斉義正室であった芝姫（真明院）が奥方トップの座にあった。斉義の側室延寿院も存命しているが、国元の仙台城にいたことから、記述は僅かである。本書に翻刻した天保 12 年の奥方は、斉義娘であった綏姫（栄心院）が斉邦正室となり、女主人の座に就いている。同年 7 月の日記から、「大御前様」と呼ばれていた芝姫が薙髪し真明院と名を改めたのは、斉義が没した直後でなく、斉邦の病気が重篤となる時期であったことが知られる。

10 冊の日記は、いずれも冒頭に目録があり、その後に日々の記録が続いている。この体裁から、リアルタイムの記録が別に存在し、これを清書して本史料が出来上がったことを推測できる。一冊ごとに、最終頁に「仕立」

と「清書」の担当者名が記されており、天保７年７月の仕立は宍戸徳之助、清書は平地岱介である。「仙台藩伊達家奥方日記」は全体として、藩主正室や後家など藩主家の女性たちの日々の動向が記録され、奥方で催される儀式、表から奥方に伝えられる情報、奥方と江戸城大奥との交流、支藩一関藩田村家、および親族家奥向との交際の模様が知られる点で、伊達家における奥方の役割を解明することを可能とする、貴重な史料である。さらに、奥方に仕える奥女中、および男性家臣の名前、奥女中の日々の任務、昇進などが個人に即して知られる点でも、今後の奥向研究の進展に寄与するものと考える。

(5)口頭による成果の公表

本研究での成果は下記の「主な発表論文等」のほか、市民向けの歴史講座等において以下の７件の講演･報告などにより公表した。①「歴史のなかの女性と政治―浅井三姉妹と伊達家妻女を中心に―」（仙台市男女共同参画推進センター「ジェンダー論講座」、エル・ソーラ仙台、2011 年 10 月 22 日）、②「武家女性の旅とその記録――関藩田村家宣寿院のお国入り―」（一関市博物館、2013 年 6 月 8 日）、③「伊達家奥方の女性と藩政」（仙台市博物館、2013 年 6 月 15 日）、④「武家の奥向記録を読む」（置賜総合文化センター「第 57 回古文書学講座」、置賜総合文化センター、2013 年 7 月 27 日）、⑤「秋田藩政と奥向」（秋田県生涯学習センター美の国アクティブカレッジ「秋田ふるさと学講座」、秋田県生涯学習センター、2013 年 11 月 16 日）、⑥「秋田藩後期から幕末の奥向」（秋田県生涯学習センター美の国アクティブカレッジ「秋田ふるさと学講座〈秋田の幕末〉」、秋田県生涯学習センター、2014 年 11 月 15 日）、⑦「近世の政治と奥女中―仙台藩伊達家を事例として―」（市川房枝記念会女性と政治センター 2014 年女性史セミナー「女性官僚の歴史」、2014 年 12 月 4 日）。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　2 件）

①菊池慶子、女性の長寿を祝う、アジア遊学、査読無、186 号、2015、234―243

②菊池慶子、大名正室の領国下向と奥向――関藩田村家宣寿院の事例を中心に―、歴史と文化、査読無、52 号、2014、25―44

〔学会発表〕（計　1 件）

①柳谷慶子、近世の震災被害とジェンダー―安政 2 年江戸大地震を中心に―、総合女性史学会 2011 年度大会、2012 年 3 月 26 日、川村学園大学（千葉県・我孫子市）

〔図書〕（計　４件）

①柳谷慶子　「武家のジェンダー」、大口勇次郎・成田龍一・服藤早苗編『新体系日本史９ジェンダー史』、山川出版社、2014、441（176―219）

②　柳谷慶子　「大名家『女使』の任務―仙台藩伊達家を中心に―」、総合女性史学会編『女性官僚の歴史』、吉川弘文館、2013、192（102―125）

〔その他〕

2011 年度～2014 年度科学研究費助成事業・学術研究助成基金助成金基盤研究（C）（課題番号 23520825）研究成果報告書『近世武家女性のライフサイクルと奥奉公に関する基盤的研究』（研究代表者　菊池慶子）、2015、1―157

６．研究組織

(1)研究代表者

菊池　慶子（KIKUCHI　Keiko）
東北学院大学・文学部・教授
研究者番号：00258782